

教科 (理科) 科目 (化学基礎) 単位数 (2)

類型 (共通) ・ 文 ・ 理) 履修規定 (必修) ・ 選択)

年間目標	1 自然の事物・現象に関する観察、実験などを通して、自然の事物・現象について自ら学び、考え、解決する能力を育む。		教科書・副教材等	
	2 身の回りの物質が粒子からできており、それらの結び付きが変わることで性質が変化し、エネルギーの出入りがあることを理解する。		1 教科書	「改訂版 化学基礎」 数研出版
3 人間と自然との関わりについて考察し、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。		2 問題集		「必修アクセス化学基礎」 浜島書店
		3 その他		「化学基礎・化学実験ノート」 愛媛県高等学校教育研究会理科部会編 「アクセス活用ノート」 浜島書店
期	月	学習内容 (予定時数)	学習目標 (短期目標)	学習のポイント・観点別評価
1 学 期	4	序章 化学と人間生活 (2) 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 (3)	・生活の中で利用されている、化学物質とその性質を理解する。	・温度と粒子の運動の関係が理解できたか。 【知識・理解】 ・混合物の分離確認ができたか。 【観察・実験】
	5	第2章 物質の構成粒子 (5)	・原子の構造、化合物とその分離、同位体の利用、元素の周期律と周期表について理解する。	・原子の構造を表現できたか。 【思考・判断】 ・周期表の特徴と元素記号を記憶できたか。 【関心・意欲】 ○ 1学期中間考査
	6	第3章 粒子の結合 (6)	・化学物質の構造について、イオン結合・共有結合・金属結合とその結晶構造について理解する。	・化学結合と結晶の関係を扱えたか。 ・原子量、分子量、式量を正しく扱うことができたか。 【知識・理解】
	7	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 (6)	・物質 (モル) の概念を理解し、化学反応式の表す意味を理解する。	・物質を理解し、質量や体積との変換ができたか。 ・化学反応式を正しく表現できたか。 ○ 1学期末考査
夏休み		復習課題	・確実に理解する。	・確実に理解できたか。
2 学 期	8	第2章 酸と塩基の反応 (12)	・酸・塩基の定義を学習し、中和反応の量的関係を実験・観察を通して理解する。	・中和反応を式で正しく表現できたか。 ・量的関係を用いて、濃度分析等ができたか。 【知識・理解】 ・実験操作が正確にできたか。 【観察・実験】 ○ 2学期中間考査
	9			
	10	第3章 酸化還元反応 (4)	・酸化還元反応を電子の授受で理解する。	・中和とpHの変化を理解できたか。 【思考・判断】
	11	(12)	・金属のイオン化傾向の差から電池が成立することを理解する。	・イオン化傾向の違いを理解できたか。 ・電池を理解できたか。 【関心・意欲】 ○ 2学期末考査
	12			
3 学 期	1	(4)	・水溶液の電気分解を理解する。	・電気分解の生成物と電気量の関係を扱うことができたか。 【思考・判断】
	2	〈発展〉化学反応と熱 (12)	・熱の出入りを熱化学方程式で表し、ヘスの法則を理解する。	・熱化学方程式とヘスの法則が扱えたか。 【思考・判断】
	3			○ 学年末考査
評価の方法	「化学基礎」の考査は、50分で行う。1・2学期の成績は、中間考査と期末考査の得点に観点別評価 (課題・ノート提出・小テストを含む) を2割程度加味して、100点満点で算出する。学年末の成績は、1・2・3学期の成績の平均とする。			